



令和5年度に新しく着任された先生方よりご挨拶



名古屋市教育委員会連携推進准教授

湯浅 郁也先生

高大連携で名古屋市立工芸高等学校から派遣されている湯浅郁也と申します。一年間という短い期間ですが、宜しくお願ひ致します。前期は「NCUラーニング・コンパス」を部分的に担当させていただきます。4月の着任より後期に担当する授業のシラバス作成や連携先との打ち合わせなど、高校とは異なる業務に戸惑いつつも充実した毎日を過ごしています。

私が高大連携に興味を持ったきっかけは、高校で探究的に学んだ生徒たちが大学でどのように学びを深めていくかについて自身に関心を持つようになったことにあります。「NCUラーニング・コンパス」で新入生たちが分野の枠を超え、“学ぶ意味を探究的に学ぶ”課程に授業担当者の一人として関わることができるのは、私にとって大きな意味があり、同時にその重要性を日々感じているところです。後期の授業では名市大生と市立高校生をつなぐ授業を構想中です。学外の協力を仰ぎながら大学生と高校生が協同的に学ぶ場の設定ができればと考えています。また現職の教員として所属校をはじめとする教育現場の状況についても伝えていきたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願ひ致します。

写真は工芸高校グラフィックアーツ科の生徒が撮影してくれたものです。



語学講師

リン ワンジュン先生

こんにちは。リン・ワンジュン (Wan Jung Lin) と申します。エイミーと呼んでください。台湾に生まれ育ち、大学卒業後すぐにアメリカへ移住、帰化し、アメリカ人として2013年に文部科学省のJETプログラムでALTとして来日しました。5年間、幼稚園、小学校、中学校で教えました。半年間、私立高校の非常勤として英語を教えた後、2019年から大学で英語を教えています。さまざまなレベルの生徒を教えた経験から、自分の語学学習経験を振り返りつつ、日本の生徒が英語でコミュニケーションをとる動機は何かということを常に考えてきました。そして、私たちは皆、異なる言語でエンパワーメントを感じた瞬間が必ずあり、それには意味や目的、葛藤が込められているはずだと確信するようになりました。私の場合、移民という特殊な背景があるため、自分のアイデンティティが変わるたびに、差別されるたびに、常に反省し、評価し、セルフトークをしました。

周りの友人ともよく話し合っ、悔しさや悩みを抱えながら、何年も考え続けました。このように自分のアイデンティティを周りとは話し合う過程で、私の日本語は飛躍的に向上しました。このことは私の教育哲学にも大きな影響を与え、授業では常に社会正義、差別、多様性、多文化共生といったテーマを取り入れています。仕事以外では、音楽、歌、山登り、旅行、地学などを楽しんでいます。これから学生と共にさまざまな問題を学び、探求し、共に日本の生活・労働環境を改善するために奮闘することを楽しみにしています。



